

【10年後のめざす姿】

1. どんな時でも利用しやすく、環境に配慮された公共空間が創出されているまち
公共空間は、公園や施設の整備だけでなく、既存の施設や空き家等についても、創意工夫によりいつでも誰でも気軽に利用でき人々が集う空間として、区内各地に整備されています。

- ・緑あふれる公園が整備され、生物の多様性が確保されるとともに、人々の憩いの場となっています。また、非常時には防災公園として機能しています。
- ・再生可能エネルギーによる電力供給システムが配備され、空間内の施設や周辺の建物等の電力を賄っています。
- ・地域の遊休資産(公共施設の空き部屋、空き家など)が、若年層のニーズや価値観、ライフスタイルにあったコミュニティを形成する場として創出できています。

将来像

2. 区内各地域の拠点となる公共空間で充実した住民活動が営まれているまち
公共空間において、人々が自由に交流し、地域のつながりが着実に広がっています。

- ・各公共空間の特色を生かして活動が行われ、多様な世代と世代がつながることで、地域で顔が見えるようになり、災害時にも助け合える関係性が築かれています。
- ・空間の規模にかかわらず、防災関連も含めた様々なイベントが定期的開催され、地域コミュニティの場として活用されているとともに、災害に強いまちとなっています。
- ・アプリ等を活用した、利用しやすい公共空間の整備が推進され、地域の人々が集まる機会が増えています。
- ・既存空間についても、行政と民間が協力し、利用しやすい魅力的な空間となっています。